

MESSAGE

知事メッセージ



沖縄県は、日本で唯一の島しょ県であり、生物多様性に富んだ豊かな自然、そして琉球王国時代から現代に受け継がれてきた独自の歴史や文化、「万国津梁（世界の架け橋）」の精神など、世界に誇れる多くの宝を有しています。

本県では、ウヤファーフジ（祖先）への敬意、自然への畏敬の念、他者の痛みに寄り添うチムグクル（真心）を大切にするとともに、「自立」「共生」「多様性」の理念の下、包摂性と寛容性に基づき、様々な施策を推進してまいりました。

こうした理念を土台とし、2019年には、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指し、「SDGs推進についての宣言」を行いました。これを起点として、2021年の「SDGs未来都市」選定、そして2022年の「おきなわSDGsプラットフォーム」の構築など、県民、企業、団体の皆様と共に、本県独自の歴史・風土に根差した「沖縄らしいSDGs」を全力で推進してまいりました。

このたび、本県として初めて取りまとめた「自発的自治体レビュー（VLR）」は、これまでの取組の進捗を客観的なデータで可視化し、各ステークホルダーによる多角的な評価を経て、私たちの「現在地」を明らかにしたものです。本レビューを通じて、本県に深く根付く「ユイマール（相互扶助）」の精神が、持続可能な社会を支える大きな力となっていることが改めて確認されました。

一方で、一人当たりの県民所得の向上やこどもの貧困対策、離島振興といった構造的な課題に加え、人口減少や物価高騰など、私たちを取り巻く情勢は刻一刻と変化しています。本VLRによって浮き彫りとなった課題は、データに基づいた実効性の高い施策として展開してまいります。

2025年には、私たちは沖縄戦終結から80年という大きな節目を迎えました。苛烈な戦火を乗り越え、復興を遂げてきた私たちは、改めて「命どろ宝（命こそ宝）」という尊い教えを深く心に刻み、平和こそが持続可能な開発の不可欠な基盤であることを、国際社会へ発信し続けなければなりません。

2026年には、首里城正殿がいよいよ完成の日を迎えます。私たちはこの再生を希望の光とし、先人から受け継いだ「残すべき沖縄らしさ」を守り抜きながら、新たなチャレンジによって「変えていくべき沖縄」を切り拓いてまいります。

本VLRが、2030年を期限とする目標達成への道筋、そしてその先の未来を見据えた新たな挑戦の指針となることを願っております。誰もが輝き、尊重され、幸福を真に実感できる持続可能な「美ら島」おきなわの実現に向け、共に歩みを進めてまいりましょう。

沖縄県知事

首里城正殿